

読者のお便りから

○124号の「脳力の未来を探る」というシンポジウムは同大新学部（生命医科学）の創部の趣旨が凝縮されていて、本当によい内容でした。ご発展をお祈りいたします。

（島原市 水田岑生）

○毎号、楽しみに講読しております。特に、125号は特集が読みごたえがありました。スポーツが内包する教育性に興味をもちました。今春、開設の「スポーツ健康科学部」と「生命医科学部」の今後の展開に大いに期待しております。

（福岡市 辻村幸雄）

○岡田武史氏のトレーニング科学を超えたイン・ザ・ゾーンのお話、とても感動しました。とても宗教的でいろいろな事業に従事されている方々のトップと言われる人達は、体験されているのではないのでしょうか。

（滋賀県 竹内佳之）

○同志社人物史を研究しております。「同志社論叢」、「新島研究」と併せて研究に必須の資料です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

（奥州市 高橋光夫）

○昭和30年4月、千葉県は九十九里浜の上総一宮から京都同志社大へ入学しまし

た。経済学部で松井教授、小松教授ほか諸先生方に大変親切なご指導をいただきました。幸い、銀行に就職し41年間元気に勤めることができました。職場での同大先輩（クローバークラブ）も多く、楽しい思い出の日も多くありました。「同志社時報」に今後とも期待いたします。

（鶴沢和長）

○私は、1953年商学部を卒業し、公務員生活を経て社会人として2001年大学院総合政策科学研究科を修了しました。同志社時報の愛読者です。この機関誌はオール同志社を対象にしているところに特色がありますが、ただひとつだけ残念なことは記事、同志社レポート、編集委員に大学院が入っていないことです。また、卒業生にとっては、母校の近況を知りたいので、同志社レポート欄をさらに充実させてほしいと思います。

（八幡市 佐野茂明）

○人生には抛り所と時に回帰できる場所があつて新たな展開をする事ができる。「同志社時報」はまさにそれなのである。校祖の深遠な導きあり、聖書の教えあり、そして、いま、国内で、世界で元気に活躍している同志社人が新鮮な姿で描かれている。奥深い同志社の存在をいっそう広く世に伝えてほしい。

（赤穂市 杉本 茂）

○かつて、「大学大競争」の中で、「眠れる獅子」と評された母校同志社大学の発展には目をみはるものがあります。今後時代の変化に機敏に対応しながら、母校の精神を体得した多くの学生を輩出されんことを願っております。

（新潟市 隅田尚武）

○文学部英文学科を卒業して53年になります。相国寺南門前町アーモスト館の東側に下宿しておりましたが、昨日のように思います。今では同志社で学んだことを喜んでおります。同志社時報いつも楽しみにしております。

（高砂市 中谷晃也）

○京都市歴史資料館の講座で数年振りに新島会館を訪れた。今年、還暦。小野哲ゼミを受けていたクラーク館の改修も終わり、小学校校長も退職し、懐かしさで今出川校地を訪れることも増えた。同志社時報も10数年ぶりの講読を再開したいと思ひ申し込みをさせていただく。現在、二つの神社の宮司。「良心」を忘れず神明奉仕の日々。（京都市 村上繁樹）
○内容が豊富で読みごたえがありました。このような内容で送料だけでは申し訳なくらいです。母校の益々のご発展を祈っております。（恵那市 鈴木隆一）